

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 リストラ件数の増加も新規採用の拡大で吸収(8月13日までの週の失業保険申請)

05年8月18日(木)

～8月の非農業部門雇用者数は前月差+190千人が見込まれる～

(No. UI-091)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

31.6万件と市場 予想を上回り前週 から0.6万件増加 したが低い水準

8月13日に終わった1週間の新規失業保険申請件数(季節調整済み)は、31.6万件と市場予想である31.0万件を上回り前週の31.0万件から0.6万件増加したが、低い水準にとどまっている。トレンドを示す4週間移動平均をみると、31.2万件と前週の31.0万件から増加した。ただし、04年後半の34万件、05年前半の32万件からも低下していることから、非農業部門雇用者数は04年後半から今年1月にかけての前月差+160千人程度の推移から、同+200千人程度の拡大ペースにシフトしていると判断される。

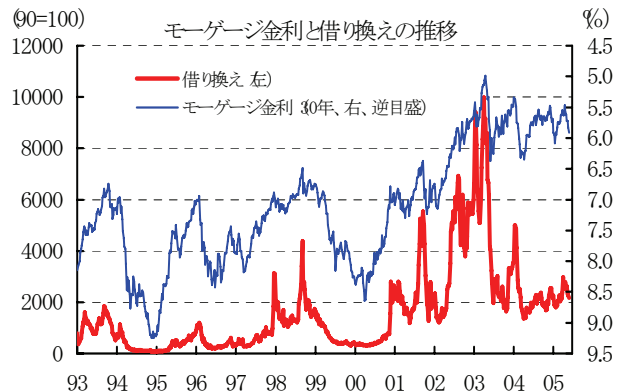
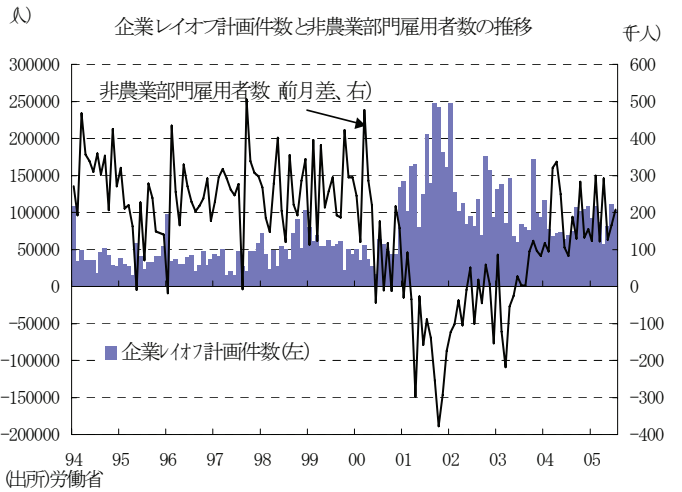
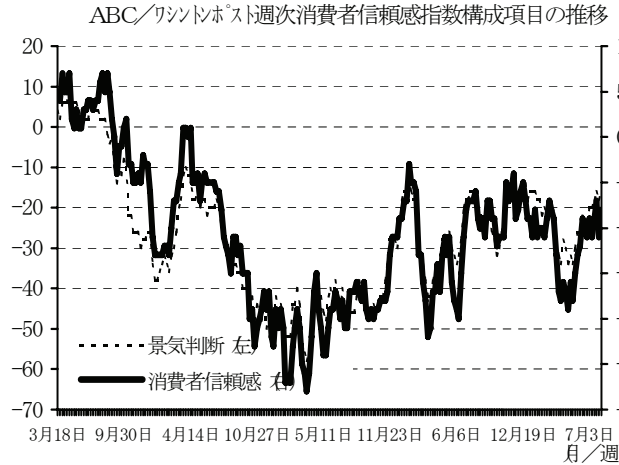
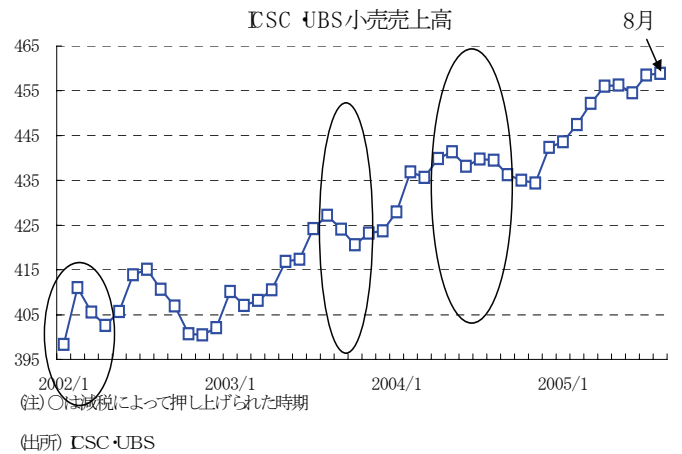
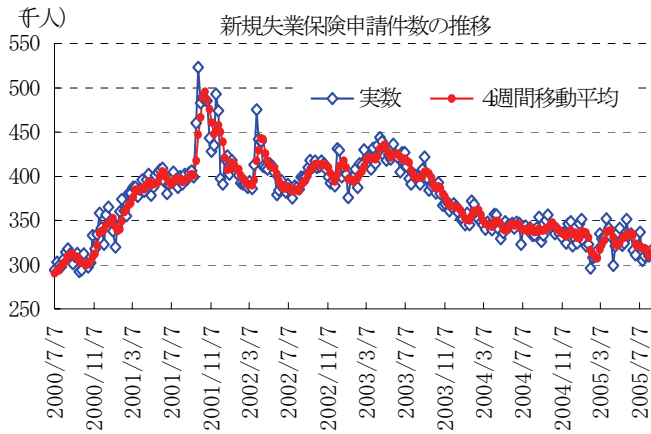
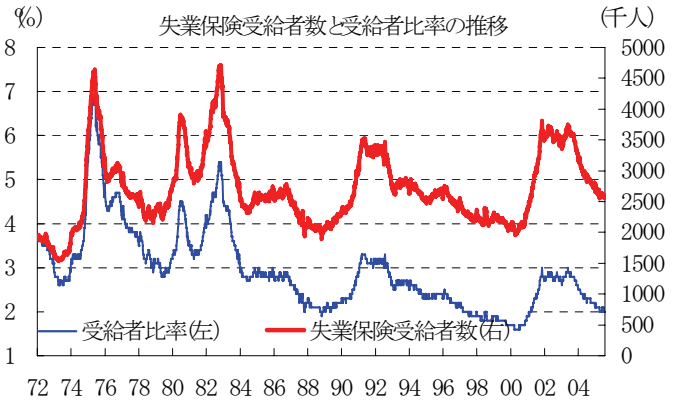
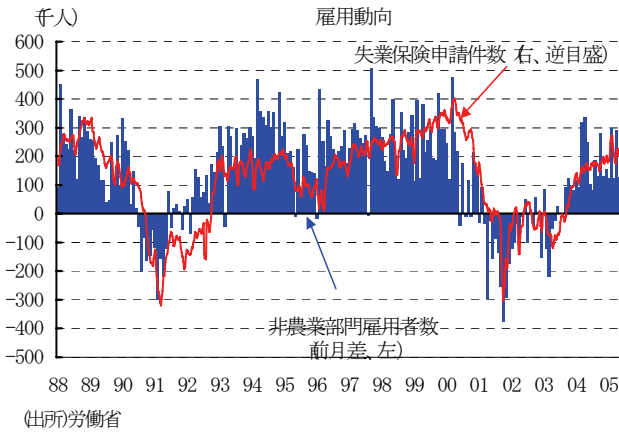
8月雇用統計の調査週である8月13日に終わった1週間の新規失業保険申請件数が7月の同調査週から小幅増加していることを背景に、8月の非農業部門雇用者数は7月の前月差+207千人から同+190千人程度へ小幅鈍化が見込まれる。

一方、8月6日に終わった週の失業保険受給者数は、259.3万人と前週から増加したものの緩やかな減少トレンドを辿っており、雇用環境の改善が続いていると判断される。また、8月6日に終わった週の失業保険受給者比率が2.0%と7月の2.0%と同率となっていることから足下でも失業率は5.0%～5.1%で推移していると考えられる。

年内、非農業部門 雇用者数は前月差 +200千人程度の 拡大が見込まれる

先行きの雇用を取巻く環境をみると、今後も価格競争の激化が続くとみられリストラ件数は高水準を維持し雇用の増加を抑制する要因となろう。一方、労働生産性はプラス基調を維持しているものの余剰生産能力の縮小によって鈍化傾向を辿る可能性が高い。さらに、雇用に先行する景気が2003年4～6月期から2005年7～9月期まで平均して潜在成長率を上回るペースで拡大しているとみられる。そのような中、7～9月期のマンパワー社による新規雇用計画調査や経営者団体の景況調査における雇用計画など、各種雇用関連調査では採用拡大が示唆されている。景気拡大が続くもと期待成長率の高まりに伴い企業の採用意欲が強くなっている。また、規模別でも多くの雇用を抱える中小企業の雇用計画(「増やす」-「減らす」)が足下7月に14%と再び上昇し、中小企業での雇用の拡大を示唆している。以上のことから、年内の非農業部門雇用者数は前月差+200千人程度が維持されると見込まれる。

個人消費は、エネルギー価格の急上昇の影響を一時的に受けるとみられるものの、雇用環境の改善に伴い賃金も緩やかなペースで上昇することから、所得が拡大傾向を辿るとみられ堅調さを維持すると予想される。



(出所)MBA

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。